

V 編集後記

本年最後の *IAM e-Magazine* 第 19 号をお送りします。今年も激動の 1 年でした。もう激動などという言葉を使うのは陳腐でしょうか。多くの自然現象が、多くの国や地域を襲い、多くの人が犠牲になりました。アメリカの大統領が誰も予想できなかったトランプ氏になり、アジアでもフィリピンで「フィリピンのトランプ」といわれるドゥテルテ氏が大統領になった。韓国では現職の大統領が犯罪に手を染めたとか染めないとか、で大デモが発生しています。今度にはヨーロッパの政治がどうなるか、が注目されていますね。ヨーロッパにもトランプ・ショックは波及するのでしょうか。そして、長期の停滞と長期戦略で苦しむ、我が日本はどうなるのでしょうか。自民党の安倍政権も 4 年以上を経過して、支持率が 60% 前後と高率なのがむしろ気にかかります。支持の理由は「ほかの内閣より良さそうだ」が圧倒的に高いからです。このことの意味は重いというべきではないでしょうか。なぜなら、裏返せば、「もっといい内閣がほかに存在しない」こと、さらにいえば、「政権交代できる政党がないこと」をも意味するからです。それでは安倍政権が立派な政策や改革を実行しているのか、成果を上げているのか、といえば、残念ながら必ずしもそうではないのではないのでしょうか。

第一に国民が望む経済回復も、アベノミクスが目指す 2% 物価上昇や長期の成長戦略もまったく実現の兆しは見えないからです。要するに、経済政策も社会政策もほとんど成功していないにもかかわらず、高支持率？ どこか不思議ですね。さて、ここ

ではこうした問題をこれ以上追求する余裕はありませんので、先に進みましょう。

今回の我が研究所の紀要「*IAM e-Magazine* 第 19 号」は第 1 ページの目次を見ていただければすぐわかりますように、できる限り多くのアジア諸国を取り上げ、そこで起きたこと、現在起きていること、これから起きること、などについて、それぞれの専門家が筆を執り、わかりやすく、また深く突っ込んだ論考を展開しております。今回は特に、元ミャンマー大使の野川保晶さんに、軍事政権下のミャンマーに在勤した経験を元に、当時の状況を詳しく、的確に述べていただいた貴重な論考です。これは、2016 年 10 月 1 日（土曜日）午後 1 時半～4 時半ころまで、日比谷図書館において講演していただいたものの要約です。発表当日も多くの人にご出席をいただき、活発な議論をしていただき、そして高い評価をいただきました。そこで、出席できなかった会員の皆さんにも是非その内容を知っていただきたいと考え、ここに収録した次第です。やはり、現場で体験したことは文献ではみられない部分があり、わかりやすく、臨場感があり、素晴らしいことですね。これからもこうした体験に基づく話や論考を少しでも多く、取り上げて行きたいと思えます。

もう 1 つ注目したいのは、童適平教授「中国における非金融企業資金調達の変化」です。これは前々回に続き、中国の金融問題を、非金融企業の資金調達の側面から取り上げていただきました。近年、中国経済の成長鈍化が注目される中で、童論文は一般に指摘される過剰生産能力の問題と国有企業を中心とする企業債務と地方政府の債

務上昇の問題を取り上げ、この問題の解決として、特に非金融企業債務の変化と現状に注目し、その資金調達の方法と現状を分析しています。こうした観点からの論考はあまり目にかかれず、お忙しい中を無理にお願いして執筆していただきましたので、じっくりと読んでいただきたいと思います。ほか

の論考についても、是非会員の皆さん自身で読んでいただいて、執筆者に何かコメントを寄せていただければ幸いです。年の瀬も迫りました。2017年はどんな年になるのでしょうか。気になりますね。どうぞ、体調に気を付け、新たな年を元気に迎えましょう。（KN）

IAM e-Magazine 第19号

2016年12月15日発行

特定非営利活動法人アジア近代化研究所 (*IAM*)